

# 家庭教育支援者地区別研修会

令和5年8月1日(火)自由民主福島会館において、県北域内の家庭教育支援者参加のもと標記の研修会を実施しました。今回は、子どもがネットやゲームにはまってしまう前に、家庭や学校でできる対応のポイントを、家庭教育支援者が学ぶことのできる機会とするため実施しました。

- 1 講演 「ネット依存になる前に大人ができること」～家庭・地域・学校でできる予防と対策～  
講師 angels-eyes 代表 情報教育アドバイザー 遠藤 美季 氏

## (1) 予防はいつからか？

(赤ちゃんの実験の動画)

乳幼児の頃からタブレットを使用していた赤ちゃんを対象にした実験動画によると、与え方によっては赤ちゃんが母親よりタブレットに強い興味関心を示すようになり、ネット依存予備軍になることが分かった。



小さな子どもでもネット依存になる可能性がある。子どもが母親のお腹にいる時から、保護者にネット依存予防の教育が必要。



## (2) ネット依存予防のために

### 依存しない子ども

- いろいろな体験をしている。
- 落ち込んでからの回復が早い。
- 安心できる居場所がある。
- ストレスの発散方法がある。
- 手伝いをする。
- ネット依存について知識がある。
- 自分をコントロールする力がある。
- 家族のイベントがある。
- 親が話を聞いてくれる。
- 自己肯定感や自尊心が高い。
- 将来のことを考えている。
- 他の人との関係を大切にする。

### 家庭で

- 親がネット利用の手本になる。
- 子どものネット利用に関心を持つ。
- 夫婦で子どもの利用を見守る。
- ストレスとの付き合い方を教える。
- 子どもが夢中になれることを見つける。
- 子どもの問題を一緒に考えて解決策を出す。



### 学校で

- クラスで話し合う。
  - ・依存の怖さ
  - ・ネットの利用時間
  - ・ネット利用のメリットとデメリット
  - ・時間の使い方
  - ・ネットの有効利用 等
- 異学年でネット依存について教えあう。
- ネット依存の心配がある子どもへ個別に対応する。(養護教諭を中心に)

### 地域で

- 保護者、祖父母へのネットリテラシー教室を開く。
- 乳幼児健診でネットの適切な利用を伝える。

## 2 演習 「それぞれの立場でできることを考えよう」

ネット依存予防のためにできることは何だろうか？



### (親として)

- SNSの正しい使い方を学び子どもに伝える。
- 子どもが納得するルール作りをする。

### (PTAの組織として)

- ネット依存を社会問題として共有し。依存事例を教材に予防対策を考える。
- デジタルウェルビーイングを理解し、大人が子どもの手本になるよう行動する。

### 【参加者の声】

- 子どもに注意する前に、自分の行動を見直すきっかけになった。
- 依存になるとどんな影響が出るのか、親子で共に考えていきたい。

### 【家庭教育支援者のみなさんへ】

子どもがネットに依存しない環境作りの大切さ、大人がネット利用の手本になることなど研修で得た知識を、様々な機会を通して、子育て世代にアドバイスをお願いいたします。